



施設のご紹介「敦賀まつりとみなとつるが山車会館」

北陸新幹線開業記念イベント

ふくい伝統行事「敦賀市赤崎 山の神講」

令和6年度げんでん芸術新人賞

第18回げんでんふるさと大賞2024写真コンテスト

越前若狭の文化活動

施設の
ご紹介

敦賀まつりと

みなとつるが山やま車ま会館

敦賀市

敦賀では、毎年9月20日から15日に開催される「氣比神宮例祭」に合わせて敦賀まつりが開催され、市民総参加のもと、神輿や6基の山車が市内を練り歩きます。各商店街で行われるお祭り広場やカーニバル大行進、市民総踊りの民謡踊りの夕べなど、この時期、街は祭り一色になります。

令和6年9月1日から4日まで開催された今年度の敦賀まつりは、令和6年3月16日に北陸新幹線が敦賀まで延伸開業したことを記念して、北陸新幹線開業特別イベントとして、沿線市町の観光物産展やご当地アイドルのイベント「街波アイドルフェス」を開催しました。

当日は台風の影響も心配されましたが、合計約16万人もの来場がありました。

この敦賀まつりの賑わいや山車の伝統について、一年を通して紹介している施設がみなとつるが山車会館です。

みなとつるが山車会館は相生町の博物館通り入り口にあつて、隣接する敦賀市立博物館（重要文化財・大和田銀行本店本館）とともに、敦賀を代表する本物の文化財が見学できる施設となっています。周辺の相生町、蓬萊町、元町周辺は古くから日本海側有数の港である敦賀町の中心地として、多くの町衆が住み、商店や蔵が立ち並び界限でした。その町衆の経済的な繁栄と氣比神宮への信仰を背景に、敦賀の山車は室町時代後期（16世紀）に誕生し、江戸時代を通して豪華華麗になっていきました。その後の社会情勢の変化や戦災を経て、現在は6基の山車が残されています。山車会館ではこの6基を収納し3基を常時展示しています。

山車会館内は、令和6年3月の北陸新幹線の敦賀



延伸開業に合わせて大幅にリニューアルを実施し魅力を一刷新しました。中でもメインシアターは、「氣比さん祭り（地元の人が親しみを込めた呼び名）」の始まりから山車の巡行までを大画面でご紹介しています。地元出身の俳優 大和田伸也さんのナレーションとあわせて、祭りと山車のすごさをじっくり体感できるとお客様からも好評です。その他にも、兜や陣羽織などが着られるフォトスポットや、敦賀市の伝統の祭りを紹介する映像コーナーなども充実しており、また、スマートフォンを使って利用でき

目次 57

●施設のご紹介	
「敦賀まつりとみなとつるが山車会館」…	2～3
●北陸新幹線開業記念イベント…	4
●ふくい伝統行事	
「敦賀市赤崎 山の神講」…	5～6
●令和6年度げんでん芸術新人賞…	7
●第18回げんでんふるさと大賞	
2024写真コンテスト…	8～9
●越前若狭の文化活動…	10
●情報ファイル…	11



公益財団法人げんでんふれあい福井財団は、福井県の文化振興とふれあいとゆとりのある地域づくりに寄与することを目的に、県民の皆様との絆を大切に広報誌を目指します。

表紙の説明『敦賀市赤崎 山の神講』

日本の山々を支配する民俗神の山の神は、大変醜い女神とされ、オコゼを供えるところに自分よりも不細工なものがいると喜ばれとされています。春になると山の神は水田に降りて田の神になり、収穫を見届けて田の神からふたたび山の神になるとの去来伝承（交替伝承）もあり、若越では伝承、祀り方に相違が見られます。敦賀市赤崎の山の神講の担い手は男子小学生がつと



め、講宿から裸で走って大日堂前の山の神に勢ぞろいをし、室内で魔除けのシトギを体に塗りたくって区内の安全を祈ります。

（写真撮影：吉田俊雄さん）

るインバンド対応の解説もご用意しています。

新幹線敦賀開業後の令和6年10月時点では、有料入館者数が前年比で2倍を超え、県外からは、関東地域の来館者の割合が増加傾向にあり、開業の効果が感じられます。観光客を出迎える新幹線敦賀駅では、敦賀を象徴するモチーフとして、山車の水引幕の図柄がコンコースの柱の装飾にも選ばれています。

また、登録文化財となっている山車会館の別館「旧大和田銀行本店社屋」は、大和田銀行の本店社屋として昭和2年（1827）まで使われた建物です。明治25年（1892）に2代目大和田荘七によって設立された大和田銀行は、低金利による融資を行うなど、敦賀港の近代化を支えました。この別館では日本遺産のストーリーとしても知られる北前船交易や敦賀城主大谷吉継について紹介するコーナーを常設しています。



敦賀では「山車」を「やま」と呼んでいます。これは京都祇園祭の山鉾の影響を強く受けて成立した敦賀の山車の伝統です。当初は、旧暦の8月4日の山車の巡行の他に、3日には練物（仮装行列や芸能飾り付けた棚などが練り歩く）も行われていました。どちらも江戸時代前期には、当時敦賀を治めていた小浜藩から規制を受けるほど数も増え、大型化し、豪華になっていったことがうかがえます。練物の中

にもやがて、裕福な商人が個人で、あるいは組合で立派な山車を出すようになり、幕末には多い時で50基もの山車が出されたと記録に残るほどでした。

明治になると3日の練物は中止、4日の山車もそれまでの大型の山車は廃止して、小型の個人持ちの山車を町の山車とするようになります。その後山車は数を減らしますが、昭和15年まで10基の山車が巡行を続けました。昭和20年7月の敦賀空襲で大きな被害があり、山車も多くが焼失しています。残された山車も継続が困難となり一旦は行われなくなりま。しかし山車復興の機運が高まり、昭和53年には御所辻子山車が巡行を再開。翌54年には金ヶ辻子山車もこれに加わり、昭和57年からは唐仁橋山車も復活しました。また、つるがの山車保存会は市内に残る山車の部材や懸装品などを発見、それらを活かして足りない部材を補って東町、観世屋町、鵜飼ヶ辻子の3基を復活させました。現在6基の山車は敦賀まつりを華やかに彩り、敦賀の町衆の歴史と心意気を多くの人々に伝えてくれています。

（敦賀市 商工貿易振興課、

みなとつるが山車会館）



北陸新幹線開業記念イベント

北陸新幹線の敦賀までの延伸開業を記念して、北陸新幹線に関連して地域文化の振興につながる事業に対して特に手厚く支援しました。

南正時 ふくいの鉄道写真展

南正時 ふくいの鉄道写真展が、令和6年8月5日(月)から8日(木)までは福井駅東口アオツサで、8月10日(土)から9月5日(木)までは敦賀駅西口ちえなみきで、9月10日(火)から23日(月・休)までは道の駅越前たけふで開催されました。この写真展は、北陸新幹線の県内延伸開業を記念して福井新聞社が開催したものです。

会場には、越前市出身の鉄道写真家 南正時さんが撮った、県内の懐かしい町並みや四季折々の自然の中を走る蒸気機関車や北陸線特急の「雷鳥」、福井鉄道の車両などの作品が並び、60年にわたり日本各地の鉄道写真を撮り続けてきた南さんの活動が紹介されています。

会場を訪れた方々は、在りし日のふるさとの懐かしい風景や電車の姿に郷愁を誘われ、目を細めながら見入っていました。



JoyJoy敦賀フェスタ2024

JoyJoy敦賀フェスタ2024が、「さあ出かけよう!敦賀の輝き再発見!」のテーマのもと、令和6年10月6日(日)に、敦賀市民文化センター及びきらめきみなと館で開催されました。この催しは、市民活動団体が集まり、お互いを知り、協力し活動の輪を広げていくことを目的に、市民活動ふえす実行委員会が開催したものです。

フェスタには、ダンスや演劇等のステージ発表11団体、ハンドメイドの体験やゲーム等のブース活動21団体及びケータリング12店舗が参加しました。県内外からの約4000人の来場者は、ステージを楽しみ、敦賀の歴史クイズで学び、昆布かき等を体験し、タコ飯等の飲食に舌鼓を打ち、敦賀の名産をお土産に購入する等、イベントを満喫していました。



ハーモニー文化フェス

北陸新幹線福井開業イベント「ハーモニー文化フェス」が、令和6年10月12日(土)と13日(日)に福井市のハーモニーホールふくいで開催されました。この催しは、令和6年3月の北陸新幹線の県内開業を記念して、(一社)福井県文化協議会が福井県と連携して開催したものです。

大ホールでは、福井農林高校郷土芸能部、明道中学校合唱部等の発表、パイプオルガンの演奏に合わせたダンスや、よさこい等の演舞などが、小ホールでは、ハープや邦楽等の演奏、長唄、二胡等の演奏が行われました。ホワイエでは、お茶席、絵画・書道ワークショップ、ものづくり体験、エントランス、練習室では、書道、絵画、俳句・川柳の展示が行われるなど、全館を使っての開催となりました。

会場を訪れた延3000人の方々は、福井の文化を体験・体感していました。



山々を支配する神

八百万やおよそと言われる日本の神々の中でも、山の神は海の神、水の神、地の神、田の神などとともに、もっともプリミティブ（原始的）な神と言っても過言ではありません。古代から日本の山々を領く（支配する）神として大変畏れられてきました。言わば森羅万象に神霊が宿るとする原始神道のアニミズムの表象として、民俗神の山の神が全国各地で祀られています。

とはいえ、その信仰や伝承、祀り方にはおのおの多様な形態があり、たとえば当県においても若狭越前、嶺南嶺北地方では、必ずしも一様ではありません。

若越の民俗相違

ちなみに、山の神の信仰は若狭地方では全域に顕著に分布しています。一集落において山域の谷ごとに山麓に祠を安置して祀られ、12月9日の「冬の山の口」と、翌年の1月もしくは2月の9日に「春の山の口」祭りが村のお講（山の神講）として行われてきました。当日は神の来臨を表す「山の神講荒れ（やまのかんこうあれ）」と呼ばれ、必ず荒天となるとされています。春は山の神が白兔に乗って木の種子を撒き、秋には種を拾い集めるので、当日は山

へ入ると山の神に木と一緒に数えられ、その祟りで大怪我をすることで入山が固く禁じられていました。1月4日の「初山入り」（伐り初め）には山仕事が可能となります。全国的に山の神は大変細工で醜い女の神と言われ、お供えのオコゼを見て世の中にこれほどめんどい（醜い）顔があるのかと喜ばれるとされています。

一方、越前地方では、弥陀一仏への帰依を重んじる真宗門徒が多く俗信が排斥されたことから、民俗信仰とされる山の神の祭礼行事は極めて希薄で、小祠で祀られることはあまりなく、むしろ山全体が山の神とされています。山の神の日には山師とされる山林労働者たちが宿に集まり、日頃の激務を労って休養し、楽しく歓談してすごします。全国各地で、「春になると山から山の神が里に下りて来て田の神になり、一年間水田を見守り収穫を見届けて、秋になると今度は田の神が山の神になる」と言われ、民俗学概念では「山の神と田の神の去来伝承（交替伝承）」と呼ばれています。この伝承は焼畑農耕から水田農耕への変遷があとづづられているとも考えられます。不思議なことには、若狭にはこの去来伝承は見られず、民俗文化の希薄な越前地方の一部の山間部に伝えられていることも極めて異例の現象と言えます。（ちなみに、若狭の後背地の滋賀県高島郡一帯には伝承されています）

子供の山の神祭り

敦賀市は越前一宮の所在地にもかかわらず、木の芽山嶺にさえぎられて、古来近畿圏に近く、方言も近畿方言に分類されているように、若狭・嶺南地方の民俗文化圏に属しており、今なお豊かな祭礼行事が伝わっています。その一つに、敦賀市北部の越前海岸に面した赤崎には、毎年子供たちが主体になって山の神を祀る「山の神講（やまのかんこ）」が行われてきました。

「講宿」と呼ばれる当番の宿は、新築や改築をした家が務めることになっており、今年12月8日の早朝、「ヤモノカンコノヤド」に男子小学生が集合し、先輩のサポートを受け、一晩水に漬けた五合の新米を搗鉢に入れてお神酒を注ぎシトギ（糰）を作ります。泥状にすりつぶしたシトギを巨大な藁



シトギを作っている様子



力飯をほおぼる様子



山の神に奉納する縄苅

令和6年度げんでん芸術新人賞

将来を大いに期待できる活動を行っている県内在住の
新人芸術家に「げんでん芸術新人賞」を贈呈しました。
【授賞式】令和6年11月17日（日）

書道



田村 彰規さん
(福井市)

小学生で書道を始め、今村桂山さん(福井市)に師事。漢字書道の研究を続け、筆致は太

く力強く、文字の大小、構成に工夫を凝らして全体を引き締めた作品を県内外で発表している。

全国公募展の日展では平成19年に初入選。以降も入選を重ね、現在は日展会友。令和3年には福井書作家協会の県書壇功績賞に選ばれ、令和6年の第78回日本書芸院展で次代を担う若手の「魁星作家」に選ばれた。県内作家と



「称揚」



「彰嘉瑞」

工芸 (木彫)



西井 武徳さん
(福井市)

しては初めての選出。近年の作品テーマは「令和の時代に合った古典の表現」。古典を基調としつつ新しい感覚を追い求めている。福井商業高校の教諭として、後進の育成にも尽力している。

高校時代に生きる実感が持てる創作に引かれ、彫刻家を目指す。文星芸術大学

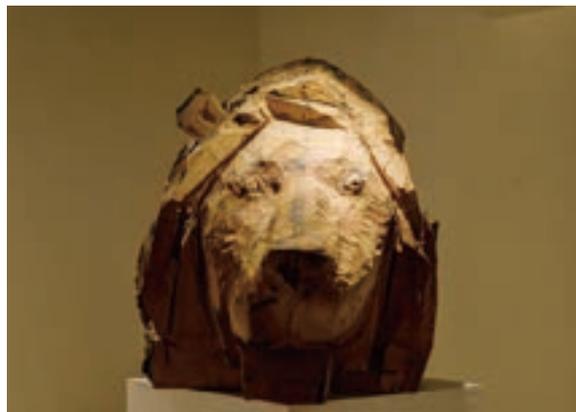
さん、須藤博志さんらに師事。その後、多摩美術大学大学院に進む。洞窟壁画に触発され、牛やライオンなどを木彫やテラコッタ(素焼き)で力強く表現している。作品テーマは、素材から作品が産まれる瞬間の美しさや力強さを表現すること。最小限の手数で成り立つか、を意識している。福井市美展で市長賞4回、県美展で2年連続の知事賞を受賞。令和6年からは県美展で会員推挙(無鑑査)となる。東京



「desolation row」

銀座や新潟県での国際芸術祭などでも作品を発表し、高く評価されている。福井市美展実行委員を務め、県内の芸術文化の活性化にも尽力している。

に入学し、杉山惣二



「vanishing point」



受賞者の田村さんと来賓の皆さん

第18回げんでんふるさと大賞

2024写真コンテスト

テーマ

ふくいの「美」



夕映えシルエットロマン

ふるさと大賞

齋藤 俊治さん (坂井市)

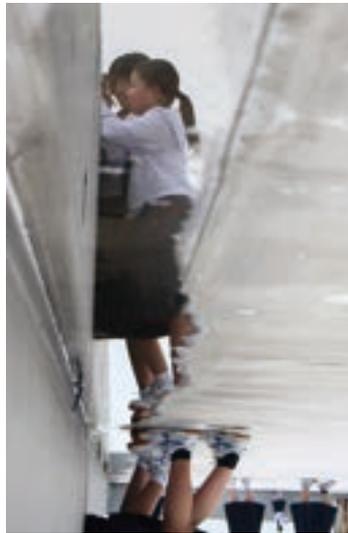
時間軸や空間軸が捻れた海岸線上に浮かぶ3つのシルエット…3人はどこか異世界へと歩を進めているようだ…。そんな幻想を抱かせる本作は、コンピュータグラフィックスではなく、写真！選ばれたモチーフ、時間帯、構図、そして何よりカメラマンの感性が、この“幻想的な傑作写真”を生み出した!! (講評:福井県立美術館 副館長(学芸) 西村 直樹さん)

ふるさと賞



美脚県都を舞う

市村 宣和さん (福井市)



内緒話

加藤 和奏さん (丹生高校)



大火勢採火

江守 伸二さん (福井市)

総評

審査委員長 写真家
水谷内 健次さん

今年は、昨年より多い375点が集まり、審査会場が狭く感じられました。どの作品にもそれぞれの魅力があり、じっくりと見て審査させていただきました。

テーマは、ふくいの「美」でありましたが、『夕映えシルエットロマン』は、美という点におきまして大賞にふさわしい作品でした。夕映えの複雑な色の美しさを見事に捉えています。ふるさと賞の『大火勢採火』は、闇に浮かぶ火の美しさを祭りが始まる高揚感と共に伝えていきます。『美脚県都を舞う』は、色と構図のシンプルな美しさが際立っています。『内緒話』は、高校生の初々しさと新鮮さが心をなごませてくれます。

ふるさと福井の自然・歴史・文化等の地域資源を題材にした写真コンテストを行いました。

【応募総数】120名375点

【表彰式】令和6年11月17日(日)

優秀賞



早天の幻想

藤村 留美さん(敦賀市)



青空を突っ切る直線美

嶋 由有美さん(福井市)



COSMOS

橋本 隆さん(坂井市)



豊作の笑み

大塚 菜南子さん(丹生高校)



夏の日の思い出

廣部 美咲さん(丹生高校)

協賛社賞

福井県カメラ商組合賞

富士フィルムイメージングシステムズ株賞

(株)フジカラー北陸賞



デコトラ

上田 幸生さん(坂井市)



秋彩

藤井 誠治さん(福井市)



丸岡城のライトアップ「ヒカリ」

竹次 一雄さん(福井市)

※入賞者の方々の名前及び作品は、当財団のホームページに掲載いたします。
<https://www.genden.or.jp/honor/>



受賞者と来賓の皆さん

越前若狭の文化活動

様々な文化団体等の活動に助成・協賛を行いました。

ベイビープールwithオーケストラ・アンサンブル金沢室内楽コンサート

ベイビープールwithオーケストラ・アンサンブル金沢室内楽コンサートが、令和6年6月30日（日）に若狭町のパレア若狭で開催されました。この催しは、歌の持つ素晴らしさを感じてもらうことを目的に、パレア若狭が開催したものです。

「声」だけで魅せる唯一無二のコーラス・エンターテインメントグループベイビープールとオーケストラ・アンサンブル金沢の弦楽四重奏とのコラボは初の組み合わせ。

「地上の星」、「からたちの花」、「花は咲く」など、一度は聞いたことのある約20曲のハーモニーに、観客は、懐かしさを感じながら心地よい一時を過ごしました。ベイビープールと一緒に歌うコーナーでは、振付をつけて来場者全員で「ドレミの歌」を歌い、会場が一体となって歌うことの楽しさを味わいました。



福井県茶道連盟和光会 第76回煎抹各流大茶会

第76回煎抹各流大茶会が、令和6年9月28日（土）から29日（日）に福井市の福井新聞社風の森ゾーンで開催されました。

この茶会は、茶道文化の普及や振興を目的として、福井県茶道連盟和光会に加盟する煎茶6流、抹茶7流の計13流派が参加して開催されたものです。

各流派は、朱傘を立てたり、秋明菊やフジバカマなど季節の草花を飾ったりと、それぞれ独自の演出を凝らしていました。茶席の亭主は、整然とした所作で煎茶や抹茶のお点前を披露し、和菓子などとともに振る舞いました。

この茶会は、これまででは春に屋外で開催されていましたが、今年は秋の屋内開催でした。子どもから大人までの幅広い年齢層の参加者にとって、伝統文化に親しめる格好の機会となりました。



第6回敦賀気比高校OBOOG アート展けひのわ

第6回敦賀気比高校OBOOGアート展けひのわが、令和6年11月1日（金）から11月3日（日・祝）に、敦賀市のプラザ萬家で開催されました。この催しは、卒業生が恩師を招いて、共に絵心・ものづくりの心を楽しみ、恩師と卒業生同士、又、来場者との交流・繋がりを目的に催したものです。

今回は恩師2人と卒業生13人での展示で、ジャンルとしてはイラスト、染織、切り絵、水彩画、エアブラシ画、造形、アクリル画、鉛筆画、ネイルアート、デジタルアート、ドローイング、と様々な作品が並び、3つのワークショップも開催されました。会場を訪れた方々は、生き生きと輝いた表情で作品をゆっくりと鑑賞したり、作家と会話していました。



げんでんふれあい講演会

令和6年10月26日（土）に敦賀市のきらめきみなと館で、げんでんふれあい講演会を開催しました。

講師は、角界最小の体格ながら、様々な技を繰り出し、「技のデパート」と言われ、技能賞を5度受賞されたNHK大相撲解説者で元小結舞の海秀平さん。講演のテーマは「小よく大を制す」。

高校の教師に内定していたにもかかわらず、後輩の突然の死や、すんでのところまで飛行機事故を免れた知人の話などから、たった一度の人生だからと、周囲の反対を押し切って夢であった大相撲入りを決意したこと、身長が足りなかったためにシリコンを頭に入れて新弟子検査に臨んだ際の痛々しいエピソード、大相撲解説の裏側などの笑いと涙の絶えない講演でした。

講演後の質疑は時間を延長して行われ、県内各地から詰めかけた約200人の相撲ファンは、充実した時間を過ごしていました。



げんでんふるさと大賞 写真コンテスト入賞作品展

令和6年11月17日（日）から24日（日）まで、げんでんふれあいギャラリー（敦賀市本町）で、第18回げんでんふるさと大賞2024写真コンテストの入賞作品展を開催しました。

会場には、応募作品375点の中から選ばれた、ふるさと大賞1点、ふるさと賞3点、優秀賞5点を始め、41点の作品を展示しました。訪れた多くの方々は、自然、風景、伝統行事などが心豊かに表現された写真に見入っていました。



又、同様の展示を、12月11日（水）から17日（火）まで、初めて、福井駅東口アオッサ一階アトリウム（福井市手寄）で開催しました。新幹線開業後初めての年末に向けた時期とあって、県民や観光客など多くの方々が、「ふくこの美」を堪能していました。

福井県連合婦人会講演会

令和6年9月11日（水）にあわら市のグランディア芳泉で、福井県連合婦人会と共催で講演会を開催しました。

講師は、喜劇役者 故・岡八郎氏の長女である市岡裕子さんで、「人生あきらめたらあかん！〜苦しいときこそ夢と希望と音楽を〜」と題して講演頂きました。市岡さんは、16歳の時にうつ病による自殺で母親を失い、父のアルコール依存症によるリストラ退団、胃がんと脳挫傷、弟の死が続く中で、アメリカのハーレム黒人教会で本場のゴスペルに出会い、ゴスペルシンガーとしての道を歩きました。

自分が苦しいときに知人の助けを得て人生を諦めずに生きられたこと、まず自分を愛すること、そして、自分を傷つけた人を許すことの大切さについてお話をされました。講演の最後には歌も披露頂きました。

今年度の福井県連合婦人会講演会は、全国女性団体連絡協議会中部ブロック会議の福井大会の一環として開催され、県内外からの会員約200人が参加しての開催となりました。集まった聴衆は、最後まで熱心に聴き入っていました。





財団 ふれあい 通信

令和7年度の助成事業を募集しています

令和7年度において、地域文化の振興、青少年等の人材育成、ふれあい及びゆとりの創造を目的に行う文化活動等に対する助成を受けたい団体を募集しています。

対象となる活動

- ◎地域文化の振興、青少年等の人材育成に関する事業
 - ・市民芸術文化団体の活動
 - ・海外との芸術文化の交流、国際文化交流団体の活動
 - ・地域文化の醸成・継承活動
 - ・新人芸術家の創作、発表活動
 - ・伝統芸能・伝統行事の保存と継承者の育成
 - ・郷土史の研究活動及び文化遺産の伝承活動 など
- ◎ふれあい及びゆとりの創造に関する事業
 - ・優れた芸術公演、展示の開催 など

対象となる団体

- 1 福井県内に活動の本拠を置く団体
- 2 構成員(会員)が、20名以上の団体
- 3 令和7年4月1日現在で、設立後2年を経過している団体

助成率及び助成限度額

区分	助成率	助成限度額
北陸新幹線関連	1/2	活動の種類により15万円～45万円
その他	1/3	活動の種類により10万円～30万円

応募方法

- 応募要領に記載する推薦団体の推薦書を添付して、助成事業申請書等を提出して下さい。
受付期間：令和6年12月10日(火)～令和7年2月5日(水)16時必着
- 上記以外にも、助成申請にあたってご注意頂きたい事項があります。詳しくは、当財団ホームページ(<https://www.genden.or.jp/grant/>)をご覧くださいか、げんでんふれあい福井財団(☎0770-21-0291)にお問い合わせ下さい。



↑詳しくは
コチラ

